

## 飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 314 回 目指せ観光スペシャリスト、築こう豊かな人格 (大阪観光大学)

2009.5.31

昨年 10 月、待望の「観光庁」が発足、観光は 21 世紀のリーディング産業の一つであり、国を挙げた国家戦略として位置づけられた。

そんな傾向は「観光学」という学問の世界にも顕著に現れている。学術としての「観光系」カリキュラムは、昭和 42 年度に立教大学が大学として初めて、観光学科を設置した。以来、平成 4 年度に 240 人だった観光系学部・学科の入学定員数は、20 年度には 3,900 人に増加。特に、平成 15 年に始まった「ビジット・ジャパン・キャンペーン」など、政府の「観光立国」推進を背景に、外国人観光客の増加、観光業界の雇用拡大が見込まれたことから、観光系の学部・学科が相次いで新設された。今年 4 月には、亜細亜大など首都圏の 3 大学が観光関連学科を開設し、40 大学で計 4,247 人に膨らんだ。

華やかなる「観光学」市場のように映るが、その実態はいかなるものだろうか？

観光庁が観光関連企業を対象に「求める人材像」を調査したところ、「管理職・リーダーとしての素質・適性」、「どの部門にも対応できる基礎能力」、「社会人としての常識・マナー」などの回答が多く、経営全般について学んでほしいというニーズが見受けられる。

それに対し、国内の観光系学部・学科のカリキュラムでは歴史、政治、地理などの社会科学系分野を重視する傾向にあり、経営に関しては軽く触れる程度が実態のようである。

これはある意味、「観光」という概念の幅広さを意味していると思う。というのは小生も「日本観光学会」の末席を汚しているメンバーの一人であるが、日本学術会議の構成員である歴史あるこの学会、ある意味では実にユニークである。

地理を専門にしている先生群がいる。そこから交通論やツーリズム移動論に特化した研究者がいる。各地の民俗や風習を極めた人、顔の骨格形成から言語学の視点で、民族や人類学を研究する。温泉や地質の研究者、旅館やホテルの経営的指導者や研究者、観光地開発や地域経済波及効果、街おこし・街づくりのプロ、気配りマナーの実務家やホスピタリティ論の先生、郷土史家や歴史研究者、地域の料理や食材、地産地消の実践者、観光ガイドや通訳士等々、人文学者もいれば社会学者もおり、経済学者や経営実務家、コンサルもいたりアナリストやジャーナリストもいる。下手すると歴史家や料理研究家、場合によっては理工系自然科学の研究者まで、千差万別。論点を絞った究極的研究課題の学会というよりは、つまり観光という名の下に集まった、「ごった煮」集団である。

この連中をまとめて「観光学者」とするから、ボケてしまうのかもしれない。

学生や社会が求めている観光の専門職としてのスキルある人材の育成、それに応えるべき文部科学省・大学の姿勢は、時代感覚のズレを感じざるを得ない。卒業生の約半分が観光業界に就職するアメリカ・コーネル大学が、カリキュラムの 66・7%を経営分野に割いているのと、我国の実態は対照的のようだ。

そんな中、日本で唯一「観光」という文字を、そのまま正式な校名にしている大学がある。大阪にある「**大阪観光大学**」である。

(同大学ホームページ <http://www.tourism.ac.jp/>)

この大学は文字通り、我国で唯一の観光専門の単科大学で、「観光学研究所」を併設している。この研究所は、観光学に関する学際的諸分野の教育・研究を通じて、観光学に関する総合的理解の促進と応用的能力を学修することにより、観光関連産業等に従事する有能な人材の育成、および学際的諸研究を通じ観光学の理論構築を目的としている。  
(同研究所ホームページより)

実は小生、大阪観光大学観光学研究所の顧問をしている。  
今年の夏、この研究所主催で大変ユニークな講座が予定されており、是非、ご紹介しておきたい。それは「**温泉観光実践士**」養成・資格認定講座である。

日本を代表する観光資源である温泉資源が有効に利用され、正しく活用されることで、いままで以上に温泉と温泉地が広く国民に愛され、さらにはONSENとして外国人にも親しく利用されることを目指したい。

しかし、ここ数年、温泉偽装、ガス爆発、レジオネラ症による事故などが発生し、温泉に対する社会的な不信・不安が生じた。一方、バブル経済の崩壊で、全国の温泉観光地では団体旅行の激減などで、観光客数が減少し、温泉旅館の経営不振が顕在化してきた。そんな背景を鑑み、実践面を重視した平易な講義によって、温泉を正しく理解した上で、温泉観光地の振興・活性化に寄与する人材を育成するための講座である。

(開講は、2009年07月11日(土)・12日(日)の両日で、場所は大阪観光大学、詳細はホームページ参照)

誰でも参加できるので、興味ある方は是非！...なんて、最後は、大学のPRになってしまった。

## 参考資料

### 観光学部

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A6%B3%E5%85%89%E5%AD%A6%E9%83%A8>

観光学部（かんこうがくぶ）は、**観光の教育・研究を行う学部**である。日本では旧運輸省（現国土交通省）観光政策審議会の「今後の観光政策の基本的な方向について」（諮問第 35 号 平成 6 年 5 月 24 日）に対する答申第 39 号（平成 7 年 6 月 2 日）にて初めて国家として観光に対する高等教育研究機関の必要性を示した。この答申の 3 年後に 1998 年、立教大学で初めて開設された。

「現代社会における観光の役割」「観光地での体験を通じた地域文化との触れ合い」「企業活動におけるホスピタリティサービスの重要性」など、観光とかかわりをもつ社会現象をより深く理解する能力を養うことを目的にしている。この観光を地理学、経済学、社会学、人類学などさまざまな学術的見地からとらえ、真に豊かな観光文化を築くための探究を進めている学部である。

なお、日本で観光学自体を専門とした履修体制を最初に整えたのは東洋大学短期大学部観光学科（1963 年設置、現在は東洋大学国際地域学部国際観光学科へ改組）である。

## 観光学部を持つ日本の大学

### 国立大学

和歌山大学

### 私立大学

立教大学

札幌国際大学

大阪観光大学

城西国際大学

神戸夙川学院大学

平安女学院大学

東海大学（2010 年度設置届出予定）

## 観光学に関連する学科・コースを置く日本の大学

### 国立大学

琉球大学 観光産業科学部

山口大学 経済学部 観光政策学科

### 公立大学

首都大学東京 都市環境学部 都市環境学科 自然・文化ツーリズムコース

高崎経済大学 地域政策学部 観光政策学科

奈良県立大学 地域創造学部 観光学科

### 私立大学（東日本）

北海商科大学 商学部 観光産業学科

ノースアジア大学 法学部 観光学科

東北福祉大学 総合福祉学部 副専攻福祉観光コース

石巻専修大学 経営学部 経営学科 国際経営・観光コース  
川村学園女子大学 人間文化学部 観光文化学科  
江戸川大学 社会学部 ライフデザイン学科 レジャー・観光プランニングコース  
流通経済大学 社会学部 国際観光学科  
文教大学 国際学部 国際関係学科 観光ビジネスコース（2年次より分化）  
東洋大学 国際地域学部 国際観光学科  
亜細亜大学経営学部経営学科ホスピタリティ専攻  
帝京大学 経済学部 観光経営学科  
玉川大学 経営学部 観光経営学科  
明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム学部 ホスピタリティ・ツーリズム学科  
横浜商科大学 商学部 貿易・観光学科  
松蔭大学 観光文化学部 観光文化学科  
桜美林大学 ビジネスマネジメント学群 ツーリズム・ホテル・エンターテイメントコース  
長野大学 環境ツーリズム学部 環境ツーリズム学科  
松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科  
共栄大学 国際経営学部 観光ビジネスコース（<http://www.kyoei.ac.jp/univ/2/index.htm>）  
西武文理大学 サービス経営学部 ホスピタリティ概論、人間理解領域  
（<http://www.bunri-c.ac.jp/univ/faculty/curriculum.html>）  
上武大学 経営情報学部 経営デザイン学科 ビジネスキャリアコース～観光ビジネス論  
（<http://www.jobu.ac.jp/gakubu/management/management.html>）

## 私立大学（西日本）

浜松大学 ビジネスデザイン学部 サービスと経営学科  
桜花学園大学 人文学部 観光文化学科  
岐阜女子大学 文化創造学部  
鈴鹿国際大学 国際人間科学部 観光学科  
京都橘大学 文化政策学部  
京都嵯峨芸術大学 芸術学部・観光デザイン学科  
大阪国際大学 国際コミュニケーション学部 観光・流通ビジネスコース  
大阪学院大学 経営学部 ホスピタリティ経営学科  
羽衣国際大学 産業社会学部 キャリアデザイン学科 観光マネジメントコース  
阪南大学 国際コミュニケーション学部 国際観光学科  
神戸夙川学院大学 観光文化学部 観光文化学科  
流通科学大学 サービス産業学部 観光・生活文化事業学科  
神戸海星女子学院大学 観光ホスピタリティ学科  
岡山商科大学 商学部 国際観光学科  
西南女学院大学 人文学部 観光文化学科  
九州産業大学 商学部 観光産業学科  
長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科  
名城大学 国際学部 観光産業学科

注）共栄大学、西武文理大学、上武大学に関しては飯島賢二が追記

## 「観光学研究所主催講座・温泉観光実践士」

大阪観光大学観光学研究所では、「温泉観光実践士」養成講座を有料で開講することになりました。

以下、開講の趣旨をご案内します。

開講の月日は、2009年07月11日(土)・12日(日)の両日で、場所は大阪観光大学の教室となります。

申込書の請求は、[kouza@tourism.ac.jp](mailto:kouza@tourism.ac.jp)、問い合わせや質問のある方は、[t-ura@tourism.ac.jp](mailto:t-ura@tourism.ac.jp)(浦達雄)までお願いいたします。

添付で資料を差し上げます。

【講義内容と担当者】

(1)2009年07月11日(土)

受付:09:15 - 09:45

開講式:観光学研究所所長 09:45 - 10:00

温泉地の歴史:浦達雄 10:00 - 11:00

温泉地の文学:安達清治 11:10 - 12:10

昼休み 12:10 - 13:00

温泉の定義と分類:高垣聡 13:10 - 14:10

温泉の成分と泉質・効果:高垣聡 14:20 - 15:20

温泉分析書の見方・読み方:高垣聡 15:30 - 16:30

移動 16:30以降(送迎付。17:00大学正門出発)

反省会(犬鳴山温泉)(自由参加) 18:30~20:00

(2)2009年07月12日(日)

移動 09:00(送迎付。09:15み奈美亭正門玄関前出発)

温泉旅館の経営:浦達雄 10:00 - 11:00

温泉地の活性化:浦達雄 11:10 - 12:10

昼休み 12:10 - 13:00

温泉と健康:中尾清 13:10 - 14:10

関西の温泉地:中尾清 14:20 - 15:20

レポート作成:15:20 - 15:50

閉校式・認定書授与:観光学研究所所長 15:50 - 16:10

【講師のプロフィール】

次の通りです。

なお、個人としてのHPは、

安達清治講師

浦 達雄講師

中尾 清講師

【開催場所】

大阪観光大学(〒590-0493 大阪府泉南郡熊取町大久保南5-3-1)

【受講定員】

受講定員は、原則ありませんが、宿泊施設の定員の都合上、宿泊を希望する受講生は先着50人となります。

【受講料】

受講料は1科目500円、資料代1,000円。9科目受講(資料代込み)の場合は5,000円とします。

1日目終了の際、み奈美亭(泉佐野市犬鳴山温泉)で宿泊懇親会を実施します。その際は、1万5,000円(1泊2食(1部屋4人) 受講料、資料代込み、飲み物代は別途徴収)となります。日帰りで受講し、み奈美亭で宿泊しないで、懇親会に参加する場合は、1万円(夕食懇親会、受講料、資料代込み)とします。

また、両日共、昼食が必要な方には、1,000円/1日をご用意いたします。

【申込方法】

郵便局から下記の口座に振込後、「受講申込書」を郵送、FAXまたはe-mailにてお送りください。

振込先： 口座番号〔00950-1-191662〕

加入者名〔大阪観光大学〕

振込人住所氏名〔住所・氏名・電話番号〕

（郵便局備え付けの振込用紙で振り込んでください）

振込期限：（宿泊の場合）平成21年6月10日（水）

（日帰りの場合）平成21年6月30日（火）

申込書送付先：〒590-0493 大阪府泉南郡熊取町大久保南5-3-1 大阪観光大学「温泉観光実践士

Tel 072-453-8222 Fax 072-453-1451

e-mail [kouza@tourism.ac.jp](mailto:kouza@tourism.ac.jp)

「領収書」につきましては、振込金受領証をもってかえさせていただきます。

一旦振り込まれた料金の払い戻しはできませんので、ご注意ください。

【問い合わせ先】

大阪観光大学「温泉観光実践士」

Tel 072-453-8222

Fax 072-453-1451

e-mail [kouza@tourism.ac.jp](mailto:kouza@tourism.ac.jp)

【申込書】

次の通りです。